

コロナ禍では、伊丹市内24か所の避難所では足りない

通常の原因事故の場合	一人 3.3m ²
伊丹市の感染症対策マニュアル	一人 6m ² 以上

約2倍の避難所が必要。おおい町住民の受け入れは困難 避難所は体育館。濃厚接触者用の別室は確保できていない

避難計画を案ずる関西連絡会は10月12日、原発事故時に福井県おおい町から約4,500名を受け入れることになっている兵庫県伊丹市に申し入れに出かけた。今回は、コロナ禍での避難者受け入れの問題が中心となった。予定の1時間を超えて約1時間半、伊丹市防災センターの会議室で申し入れを行った。伊丹市からは総務部危機管理室から三名(井出口室長、梶田主幹、大東主任)が対応された。市民は兵庫・大阪から8名が参加。伊丹市議会議員の大津留求さん、安藤なの香さん、高橋有子さんも同席された。一昨年の申し入れ同様、今回も大津留議員のご尽力によるもので、感謝します。



最初に質問・要望書^{*1}を提出し、市から口頭で回答があった。伊丹市は、8月27日の福井県防災訓練は視察していないとのことだったので、パワーポイントで写真を紹介しながら、訓練の問題点等を伝えた。その後、市の回答を踏まえて議論した。

全体として、コロナ禍で原発事故が起これば、現在指定されている伊丹市24か所の避難所で、おおい町住民を受け入れることは無理だということが具体的に明らかになった。濃厚接触者等の別室も確保されていない。避難所で使用する備品(体温計、間仕切り用段ボール等)は、全ておおい町・福井県が準備することになっており、市は「体育館を貸すだけ」との姿勢だった。浪江町から兵庫に避難している菅野みずえさんは、福島原発事故当時の避難所の様子等をパワーポイントで示しながら、避難がいかに困難だったかを語り、「体育館を貸すだけ」という市の姿勢を厳しく批判した。申し入れの最後には、避難所の数が足りないこと等について兵庫県と協議し、おおい町・福井県にも実情を伝えて協議していきたいと表明した。

伊丹市宛ての質問・要望書 http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/itami_q_yobo20201012.pdf
以下に、当日のポイントを紹介する。

◆「コロナ禍では、現在の24か所の避難所では、数字上は足りない」

大飯原発で事故が起これば、町内全域が避難することになる。おおい町住民約8,100名の福井県外避難先は、兵庫県の伊丹市と川西市。関西広域連合の調整等で、伊丹市は名田庄地区(約2,500名)と本郷地区(約2,000名)の約4,500名のおおい町住民を受け入れる計画だ。約4,500名の避難所は、伊丹市内24の小中高校の体育館となっている(4・5頁資料参照)。

伊丹市は受け入れ自治体のため、避難所の問題を中心に議論した。感染症対策を考慮した場合、24か所の体育館で足りるのかを問うた。市は「なんとも言えない。24の施設を提供する約束になっているのでそうしている。それ以上に避難所はない」と、形式的な回答だった。

他方で伊丹市は、コロナ禍で市民が自然災害等で避難する場合に備えて「伊丹市避難所運営マニュアル（新型コロナウイルス感染予防対策編）2020年7月改定」※2を作成している。「おおい町住民の受け入れも、基本はそれに沿って受け入れが可能かと思う」と回答。伊丹市の計画では、コロナ禍では社会的距離も含めて一人6㎡以上と想定されている。他方、通常の原因事故時の避難スペースは一人3.3㎡と関西広域連合が決めている。一人3.3㎡を元にして決めた24か所の避難所では足りないのではないか、2倍の避難所が必要になるのではないかと、伊丹市の計画も示しながら尋ねた。すると室長は、一人6㎡としている伊丹市の計画は、「一つの例」等と言い、何の根拠も示すことなく、受け入れが「困難とは思っていない」と語った。「困難」という言葉をよほど使いたくないようだったが、議論の中で「コロナ禍では、24の避難所では、数字上は足りない」と回答し、2倍の避難所が必要になることを事実上認めた。これでは、おおい町住民は避難できない。

※2 伊丹市のマニュアル

<http://www.city.itami.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/93/honnpennnado.pdf>

【伊丹市における標準的な目安】

- 世帯ごとの間隔：身体的距離（できるだけ2m（最低1m））を確保
- ・ 避難所一人あたりの居住面積：3㎡以上（身体的距離を考慮した場合、避難所スペースは、約2倍を要する）

【兵庫県における標準的な目安】

※ 標準世帯（3人）の居住面積：3㎡/人以上×3人=9㎡以上

世帯区分	居住面積	身体的距離 共有部分面積	世帯の必要面積
3人世帯	9㎡	11㎡	20㎡（5m×4m）

伊丹市マニュアル73頁

◆「避難所は学校の体育館なので、濃厚接触者等の別室は確保できていない」

コロナ禍の避難では、濃厚接触者や感染の疑いのある人（熱がある等）には、別室を用意し、感染拡大を防ぐことになっている。これについて問うと「学校は授業をやっていることを前提にしているため、避難所は体育館に限っている。そのため、別室は確保できていない」とのこと。それでは感染拡大を防止できないと重ねて尋ねても、「そういう計画になっている」としか答えられなかった。

また、一昨年の申入れで質問していた、おおい町の在宅要援護者の避難先について、福祉避難所等は決まったのかを確認した。しかし「具体的には検討していない。兵庫県と福井県が調整することになっている」と他人事のような回答だった。計画ができてから何年も経つのに、避難計画の中身はまったく具体化されていない。

◆避難所で必要な備品は「おおい町・福井県が準備する」

「避難経路の途中で倉庫を借りているとのこと」

避難所では毛布・水・食料等が必要になるが、コロナ禍ではこれらに加えて、体温計、間仕切り用段ボール、簡易ベッド等も必要になる。これらの備品の準備はできているのかを尋ねた。すると「それらは全ておおい町・福井県が準備することになっている。市は体育館を提供するだけ」と、当然のことでしょうと言わんばかりの回答だった。おおい町等は準備できているかと聞くと「避難経路の途中で倉庫を借りているという話を聞いた」と答えるだけで、倉庫が

どこなのか等は全く知らないとのことだった。

「避難所を貸すだけ。後は全て避難元のおおい町・福井県」という伊丹市の姿勢に対し、浪江町から兵庫に避難している菅野さんは、3.11 事故の避難の様子を写真で紹介しながら、「血の通わない避難者受入れはあり得ない」「原発事故では、受け入れ自治体の職員の皆さんも大変な苦労をされた」と切々と訴えた。市の職員は返す言葉もなく、じっと話に聞き入っていた。

室長は最後に、コロナ禍の避難について、避難所の数と避難者数について、兵庫県と協議していきたいと表明した。また、現状と兵庫県との協議内容について、おおい町と福井県にも伝えて協議していきたいと述べた。私たちは、避難元と避難先で具体的に問題点を検討してほしいこと、そして、感染症対策と避難は両立しないため、再稼働に反対するよう求めた。

◆「拭き取りだけの除染の改善については、おおい町からまだ回答はない」

一昨年から問題になっていることだが、おおい町名田庄地区住民の除染は、流水を使わず拭き取りだけの除染となっている。スクリーニング・除染場所となっている京都府美山町の美山長谷公園。この地区の住民から、流水除染で出る汚染水を懸念する声が強く、福井県が拭き取りだけの除染と決めた。しかし、私たちの2018年申入れで、伊丹市と川西市は「完全に安全な車両と住民を受け入れることになっている」と表明し、その後おおい町に除染の改善等を求めていた。おおい町からは昨年に「拭き取り除染は懸念している。同様に課題を認識しており、福井県に文書で伝えた。内閣府・福井県等で検討される」との回答を市は受け取っている。



その後、この除染の改善について進展はあったか問うたが、「おおい町からはまだ回答はない」とのことだった。この問題についても、「おおい町にその後の対応状況等を再度問い合わせる」ということになった。

当初の予定を超えて1時間半の申入れとなった。避難元も避難先も原発事故と避難の問題をあまりにも甘く考えている。コロナ禍で「三密を避ける」「ソーシャルディスタンスの確保」が求められる中では、避難所の数が足りないことは明らかだ。このことに象徴されるように、感染症対策と原発避難は両立できない。住民の安全を守るためには、再稼働を止めるしかないことが、避難先への申入れを通じても明らかとなった。

なお、私たちの要望を受けて、伊丹市申入れから1週間後の10月19日に、伊丹市の市長付参事（危機管理担当）等5名の職員がおおい町を訪問され、コロナ禍の避難の問題等について情報共有し、協議したとのことだった（10月22日のおおい町申入れで知った）。このようなことは初めてのことで、今後、協議の内容等について、伊丹市からも話を聞いていきたい。

2020.10.23

避難計画を案ずる関西連絡会

連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 脱原発はりまアクション/
原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会



おおい町 原子力災害 住民避難計画

(2) 県外避難の場合

県により、県外避難の実施が決定された場合、「福井県広域避難計画要綱」に基づく避難計画で定める県外避難先（表19）への避難を開始する。

また、避難行動の手順は県内避難に準ずるものとし、UPZ内全ての避難者は、スクリーニングポイント（避難退域時検査所）で、検査を確実に実施し、駐車場を確保できないことから、「車両一時保管場所」に車を置いて避難を行うこととする。

表19 各地区の避難先となる避難施設（県外避難の場合・町全域）

小学校区	人口	大字・町名	字・丁目名	人口	小計(a)	避難先市町名	車両一時保管場所(候補地)	避難所
			河村	132	132	川西市	久代小学校	
			日角浜	39				
			畑村	64	159	川西市	桜が丘小学校	
			脇今安	56				
			宮留	133				
			南浦	120	253	川西市	川西小学校	
佐分利	1,460		川上	197	197	川西市	緑台小学校	
			三森	28				
			久保	129	157	川西市	川西北小学校	
			安川	75				
			福谷	131	206	川西市	明峰小学校	
			石山	134				
			佐畑	21				
			小車田	56	389	川西市	川西明峰高等学校	
			鹿野	178				
			笹谷	105				
			神崎	63	168	川西市	多田東小学校	
			岡安	163	163	川西市	多田小学校	
			広岡	35				
万願寺	145	180	川西市	丹波の森公苑 けやき坂小学校				
名田庄	2,382		納田終	117	117	伊丹市	三木総合防災公園 天王寺川中学校	
			坂本	奥坂本	38			
				口坂本	158	196	伊丹市	鴻池小学校
			井上	195	195	伊丹市	萩野小学校	
			西谷	45				
			中	153	198	伊丹市	天神川小学校	
			下	286	286	伊丹市	荒牧中学校 瑞穂小学校	
			小倉	139	139	伊丹市	有岡小学校	
			美川	堂本	92			
				横谷	11	189	伊丹市	神津小学校
			下久田	虫鹿野・木谷・虫谷	86			
				小倉畑	190	190	伊丹市	桜台小学校
			久坂	久坂	212	212	伊丹市	伊丹小学校
				挙野	161	161	伊丹市	稲野小学校
				下三重	98			
			三重	山田	87	185	伊丹市	北中学校
				秋和	45			
兵瀬	130	175		伊丹市	緑丘小学校			
尾ノ内	139	139		伊丹市	東中学校			

おおい町 原子力災害 住民避難計画

(表19 のつづき)

小学校区	人口	大字・町名	字・丁目名	人口	小計 (a)	避難先市町名	車両一時保管場所 (候補地)	避難所	
本郷	3,665	本郷	駅前	126	126	伊丹市	丹波の森公園 三木総合防災公園	笹原小学校	
			青戸	219	219	伊丹市		笹原中学校	
			1の1区	80	168	伊丹市		鈴原小学校	
			1の2区	45					
			2区	43	370	伊丹市		市立伊丹高校	
			13区	370					
			3区	75					
			仲の町	98	173	伊丹市		南小学校	
			5区	81					
			6区	113	194	伊丹市		南中学校	
			8区	53					
			9区	41					
			10の1区	41	194	伊丹市		昆陽里小学校	
			10の2区	26					
			11区	33	199	伊丹市		松崎中学校	
			12の1区	76					
			12の2区	39					
			14区	84	68	伊丹市		摂陽小学校	
			7区	68					
			15区	320	320	伊丹市		西中学校	
			尾内	162	162	川西市		牧の台小学校	
			長井	長井、東浜	190	190		川西市	陽明小学校
			山田		49	360		川西市	川西緑台高等学校
			芝崎		39				
			野尻	野尻・楊梅苑	272	182		川西市	東谷小学校
			父子		182				
岡田		302	302	川西市	川西北稜高等学校				
小堀		109	176	川西市	北稜小学校				
犬見		67							
成和		262	262	川西市	清和台小学校 清和台南小学校				
	8,233			8,233	8,233				